

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	・意見箱の設置や面会時、運営推進会議等を通じて、意見を引き出すよう配慮しているが、もっと積極的に意見等が汲み取れるようにしていきたい	・利用者、家族がホームへの意見を言いやすい環境を整える ・職員の顔と名前を明確にすることで、コミュニケーションの円滑化を図る	・お便り等にアンケート(個人面談の必要性を含む)を同封し、意見や意向を定期的に確認する ・意見箱の設置場所を変更する(職員から見えずらい、各階エレベーター前へ) ・職員の顔写真と氏名を各ユニット玄関へ掲示する	6ヶ月
2	2	・利用者の重度化により、地域活動への参加が消極的になってきた ・施設周辺が福祉施設が多いことや新興住宅・アパート・団地等という立地条件において、地域交流が上手く機能していない ・地域住民等へホームの機能や活動状況等についての情報発信が不足している、	・利用者、家族や職員が地域の方々と今まで以上に交流できる環境作りを行い、ホームへの理解を深めていただく(地域ボランティアや老人クラブの方々を中心に) ・ホーム職員が中心となり、地域住民に対して、認知症をより理解していただくための取り組みを工夫し、認知症高齢者が安心した生活を送れるような地域を築く手助けをする	・町内会や集会(学校・老人クラブ等)において、認知症の啓発活動(講演会)を実施する ・ホームだよりを発行し、町内会等へ配布する(6月・10月・2月、3回/年) ・地域の方々へホーム行事への参加を促す(老人クラブ・地域ボランティア等)	12ヶ月
3	19	・機能性や感染症予防等を重視し、ユニホームを着用しているが、外出時や生活空間において、違和感があり、認知症状における混乱を招く恐れがある ・外出時、職員がユニホームを着用することで、周囲から、偏見の目でみられてしまうことがある	・利用者が、家庭的な雰囲気の中で、違和感なく生活を送ることができるようにする	・外出時(行事・バスハイク等)職員も私服に着替えて、付き添いを行う ・統一したエプロンの着用を廃止し、職員個々のエプロンを着用する	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。